

## 健康課題まとめと計画の目的

健康課題に対して本計画で目指す姿（目的）、その目的を達成するための目標を示したものである。

項目	健康課題	対応する保健事業番号	データヘルス計画全体における目的
A	生活習慣病状態不明者（健診未受診者）が多い傾向にあり、健診を受けて自分の健康状態を確認できている人が少ない。	1、2	<ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者が自分の健康状態を確認できる</li> <li>生活習慣改善や受診の必要性を把握するために健診受診者数を増やす</li> </ul>
B	生活習慣病の発症前の段階である内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の該当者・予備軍の割合が全国・県・同規模団体を上回っている。	2、3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣に起因する糖尿病等の発症と重症化を予防する</li> </ul>
C	被保険者に占める透析患者の割合が全国・県・同規模団体を上回っている。	2、3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病を起因とする新規の透析患者を出さない</li> <li>重症化リスクの高い者に対し主治医と協力して保健指導に取り組む</li> </ul>
D	ジェネリック医薬品の使用率が、国が示している目標値80%は達成しているものの、年々減少している。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェネリック医薬品の普及啓発による医療費の削減と適正化を図る</li> </ul>

## 保健事業

健康課題に対する対策の検討結果を踏まえ、第3期データヘルス計画にて実施する事業一覧を示したものである。

事業番号	事業名称	事業概要	区分	重点・優先度
1	特定健診受診率向上事業	特定健診の受診を促し、受診者数を増やして特定保健指導等の支援対象者を把握する	継続	✓
2	特定保健指導利用率向上事業	初回面接分割実施と後日初回面接実施の2方法で実施し、生活習慣に起因する糖尿病等の発症、重症化を予防するため、生活習慣改善を促す	継続	✓
3	糖尿病性腎症・重症化予防事業	レセプトによる医療機関受診状況や特定健康診査の結果から、人工透析への移行リスクが高い者を抽出し、保健師、管理栄養士等の専門職による保健指導を実施する。	継続	✓
4	後発医薬品・使用促進通知事業	現在使用している先発医薬品から後発医薬品に切り替えることで、一定額以上の自己負担額の軽減が見込まれる被保険者に対し、自己負担額の差額等を通知する。	継続	

## 南三陸町国民健康保険

### 第3期データヘルス計画及び第4期特定健康診査等実施計画 概要版

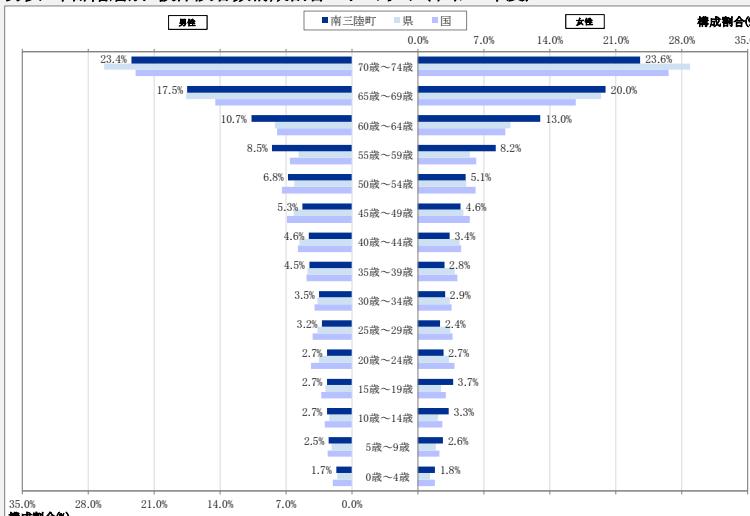
#### 計画の概要

「データヘルス計画」はデータ分析に基づく保健事業の実施内容やその目的・目標を、「特定健康診査等実施計画」は保健事業の中核をなす特定健康診査・特定保健指導の実施方法や目標等をそれぞれ定めたもので、いずれも、被保険者の生活の質（QOL）の維持・向上、健康寿命の延伸、その結果としての医療費適正化に資することを目的としている。

このたび令和5年度に両計画が最終年度を迎えることから、過去の取り組みの成果・課題を踏まえ、より効果的・効率的に保健事業を実施するために、「第3期データヘルス計画」と「第4期特定健康診査等実施計画」を一体的に策定する。

#### 人口構成概要

##### 男女・年齢階層別 被保険者数構成割合ピラミッド(令和4年度)



#### 平均余命と平均自立期間

平均余命と平均自立期間の差は男性が県より短く、女性は県よりも長い傾向にある。



男性

女性

## 死亡の状況

心臓病、脳疾患の死因の割合が経年比較して増加している

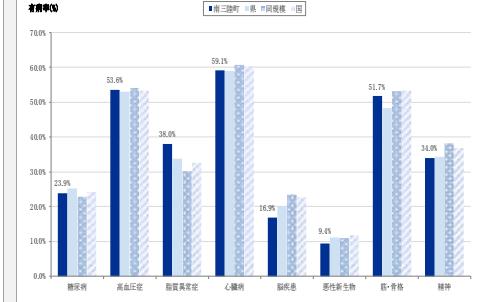
## 要介護認定者の状況

県と比較して脂質異常症、筋・骨格の割合が高い

## 主たる死因の割合(年度別)



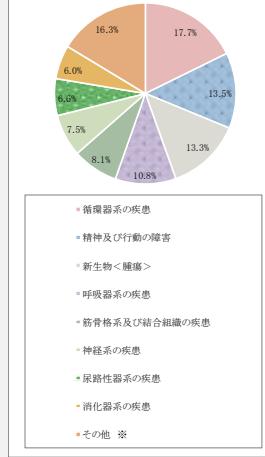
## 要介護(支援)認定者の疾病別有病率(令和4年度)



## 疾病別医療費

疾病大分類医療費構成比の入院では、循環器系の疾患が一番高く、外来では、内分泌、栄養及び代謝疾患が上位にある。いずれも、高血圧症や糖尿病などの生活習慣病になる。細小分類による医療費上位には、慢性腎臓病(透析あり)があり、生活習慣病の重症化疾患である。

## 大分類医療費構成比(入院)



## 大分類医療費構成比(外来)



## 細小分類による医療費上位

順位	細小分類別疾患	医療費(円)	割合(%)
1	糖尿病	87,184,540	6.4%
2	慢性腎臓病(透析あり)	73,952,470	5.4%
3	統合失調症	56,633,500	4.1%
4	関節疾患	48,161,850	3.5%
5	高血圧症	45,505,330	3.3%
6	脂質異常症	40,627,450	3.0%
7	肺がん	38,456,770	2.8%
8	不整脈	34,692,080	2.5%
9	うつ病	32,102,120	2.4%
10	脳梗塞	27,353,600	2.0%

## 特定健康診査受診率

年齢別受診率では、男性では40歳～44歳が一番低く、女性では50歳～54歳が一番低い。男女ともに若年層の受診率が低い傾向にある。

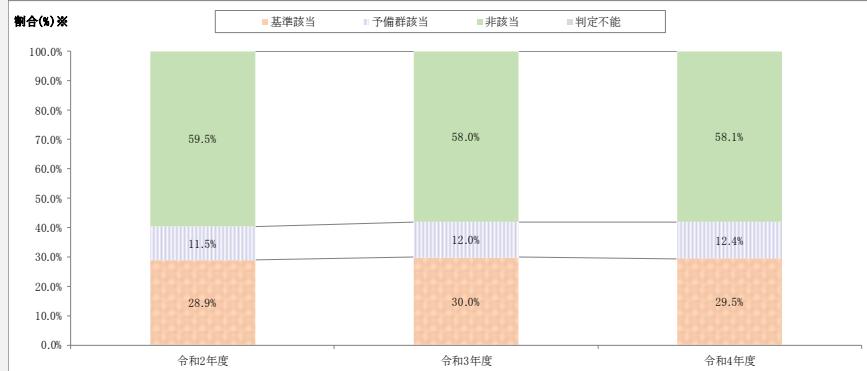
## 年齢別特定健康診査受診率(令和4年度)



## メタボリックシンドローム該当状況

健診受診者全体では、予備群及び該当者が約4割を占める。

## 年度別メタボリックシンドローム該当状況



## 前期計画の評価と考察

### 全体目標

第2期データヘルス計画は、健康・医療情報を活用してP D C Aサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るために実施計画(データヘルス計画)を策定したうえで、保健事業の実施・評価・改善等を行う。評価指標を以下のとおり捉え、データヘルス計画の目的を達成するために中長期的な目標(計画の最終年度である令和5年度までに達成すべき目標)と短期目標を定め、保健事業を展開する。

評価指標	計画策定期実績 2016年度(H28)	実績		評価・考察 (成功・未達要因)
		中間評価時点 2020年度(R2)	現状値 2022年度(R4)	
特定健診の受診率の向上	39.2%	36.0%	43.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>町担当係だけでなく地区組織の住民と受診率向上キャンペーンを実施し、特定健診受診の必要性について共有が図られた。</li> <li>新型コロナ感染症の影響により集団での受診勧奨事業が困難となった。</li> <li>新型コロナ感染症対応業務の増大により相対的にマンパワーが不足し、事業実施に影響が出た。</li> </ul>
特定保健指導の対象者の実施率の向上	1.4%	2.3%	29.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定健診会場での特定保健指導初回面談の実施が、就労世代にとって利用しやすい方法であったと考えられる。</li> </ul>
健診異常値放置者の医療機関受診率の向上	23.1%	実施なし	実施なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常値放置者のうち、一定以上のリスクがある者に限定して受診勧奨の通知を行っていたため、送付数が少なかった。より多くの人にアプローチできるような実施方法を検討する必要がある。</li> </ul>